

ノート指導(理科編)

およそ教師の力量は、子どものノートに反映されています。

子どもたちのノートを見て、およそ美しく書かれていれば、その先生の力量は高いといえます。

しかし、文字はぐちゃぐちゃ、線は定規で引かれていない、日付がない、ページ数も書かれていないノートの場合は、そうでないのでしょうか。(ただし、例外ということがあります。どうしてもノートに書くことが苦手な子がいます。教師は、100パーセントを目指しますが、子どもに完璧を強いてはいけません)

さて、理科の場合私は次のようなことを指導します。

先生方の参考になれば幸いです。

私は次のようなものを書くように指示しています。

1	日付	
2	該当ページ数	
3	天気・気温	
4	単元名(教科書を写させる)	
5	実験の課題(教科書を写させる)	
6	実験の方法	
7	予想	
8	結果	
9	結論	
10	実験の感想	

これを書かせるときは、初期段階では、教科書をほとんど丸写しさせます。

書く内容ではなく、書き方だけに限定して指導するためです。

やがて、子どもの到達状況を見ながら、独自のキャラクターを書き込ませたり、吹き出しに書かせたりして、書く内容に踏み込んで指導します。

さらに、「6 実験の方法」は、しばらくたってから、「4コマ漫画にきなさい」とか「ギャグを入れて書きなさい」とか「遊び半分で書きなさい」などと言ったりもします。

そうすると、子どもたちは、ノート作りを楽しむようになります。また、自分なりのノートを作るようになります。

ただ、そのとき一つだけ条件を付けます。漫画などで書かせてもいいのですが、

「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100」などの番号を必ず入れさせることです。また、「数字と数字は垂直・平行に並んでいると、きれいに見えるんだよ」とも教えます。

そうした基礎的なことはきちんと教えることが大事です。

その上で、半年後にはクラスの状況によって、「先生は、なにも言わないから、実験ノートを自分だけで書いてごらん」と指示します。

最後は「自分だけでできる子」を育てることが、教育の目的だからです。

保護者への対応

保護者への対応で、私が気をつけていることは次のようなことです。

常にワンランク上の対応をする

例えば、「これくらいは保護者に伝えることもなかろう」という場合には、電話を一本入れておきます。

また、「ここは電話を一本入れることが必要だな」という場合には、家庭訪問して顔を見て直接お話をします。

こうした普段からの「少し丁寧すぎる対応」が、肝心なときに生きてきます。

また、要望・クレームに対しては必ず家庭訪問です。

連絡帳に要望・クレームが書かれてきたからといって、連絡帳で返すという対応は通常あり得ません。

なぜなら、連絡帳はあくまで「連絡する」という機能のみを担っているからです。

説得や謝罪はそれにはなっていないからです。

しかし、ときに連絡帳が非常に効果があるときがあります。

それはこうした場合です。

子どもをほめてあげるとき

保護者になかなかほめてもらえていない子どもや、親子の関わりが心配な家庭には、連絡帳に子どもの良い行動を書いて差し上げます。

小さなことでいいのです。

例えば、「今日掃除の時間、黒板の下の床をチョークだらけになりながら一生懸命拭いてくれました。是非おうちでもほめて差し上げてくださいね」と書きます。

そして、子どもに「すごい大事なことが書いてあるから、帰ったらすぐに、おうちの人に連絡帳を渡して読んでもらおうだよ」と言伝えるわけです。

これで、おうちでは小さなドラマが生まれるのです。